

新規就農 覚え書き

ver. 4.2.1

就農前・研修中・就農後の要点と
実際就農相談の事例より



自然農場 風天 中山建

目次

【①はじめに】	住宅探し・・・・・・・・・・・・・32
大前提・・・・・・・・・・・・・4	資金の見積と節約・・・・・・・・・・34
この資料について・・・・・・・・・・5	販路の検討・・・・・・・・・・・・・35
作者プロフィール・・・・・・・・・・6	失敗事例の収集・・・・・・・・・・・・・36
農場の概要・・・・・・・・・・・・・7	【④新規就農後】
農家になった理由・・・・・・・・・・9	一年目はデータ取り・・・・・・・・・・38
就農までの道のり・・・・・・・・・・10	地域への浸透・・・・・・・・・・・・・40
【②新規就農の前に】	農業のみに集中・・・・・・・・・・・・・41
就農理由と作目・・・・・・・・・・・・・12	技術研鑽と情報収集・・・・・・・・・・42
家族の同意・・・・・・・・・・・・・13	経費の節減・・・・・・・・・・・・・44
資金の準備・・・・・・・・・・・・・14	自前か外注か・・・・・・・・・・・・・46
事実誤認を確認・・・・・・・・・・・・・15	取引先の選定・・・・・・・・・・・・・47
相談窓口へ・・・・・・・・・・・・・16	【⑤就農相談事例と作者の所見】
情報収集・・・・・・・・・・・・・17	どこで何を作るか・・・・・・・・・・・・・49
自己PRツール・・・・・・・・・・・・・18	借金をしたくない・・・・・・・・・・・・・50
社会人経験・・・・・・・・・・・・・20	半農半Xで慎ましく・・・・・・・・・・51
独立と雇用の違い・・・・・・・・・・・・・21	農業法人から始めたい・・・・・・・・・・52
経営の理想像・・・・・・・・・・・・・22	農業法人を設立したい・・・・・・・・・・53
【③農家研修中】	管理/販売仲介をしたい・・・・・・・・・・54
農家研修の必要性・・・・・・・・・・・・・24	40代以上や新卒での就農・・・・・・・・55
研修の心構え・・・・・・・・・・・・・25	引きこもりの息子に・・・・・・・・・・56
研修先選びの注意・・・・・・・・・・・・・26	一年目だが儲からない・・・・・・・・・・57
就農計画の作成・・・・・・・・・・・・・27	スマート農業について・・・・・・・・・・58
研修先以外の見聞・・・・・・・・・・・・・29	研修時の収入・・・・・・・・・・・・・59
農地探し・・・・・・・・・・・・・31	夫婦で一緒に就農・・・・・・・・・・・・・60

①はじめに

大前提

①はじめに

▶ 作者は**新規就農をオススメしない**。理由は以下の通りである。

- ① 日本の農家数は確かに減っているが、農産物価格は上昇しておらず、むしろ下落傾向。
- ② 大農家・効率化が進んでいる農家が増え、新規就農者には不利な環境になりつつある。
- ③ 地方で求められているのは新規就農者ではなく、実際には移住者や荒廃農地を管理してくれる管理者である。
- ④ 農家には休みがなく、体はきつく、天候に左右され、収入が不安定である等悪条件が多い。

そんなものは関係ない、それでも農家になりたい!…と考える無謀な方に、この資料を贈る。

①-1:この資料について

①はじめに

▶この資料は、自分自身の新規就農の経過を忘れないため、また同じく新規就農を志す仲間が参考とするためにまとめるものである。後年受けた相談事例についても併せてまとめている。

▶作者は非農家出身であり、

- ①野菜の有機栽培
- ②少量多品目栽培
- ③飲食店/個人への直売

を行う農家である。上記に該当しない雇用就農や野菜以外の作目の方には、参考になりにくい内容である可能性があることをご了承願いたい。

①-2: 作者プロフィール

①はじめに

中山 建 なかやま はじめ



- ▶ 1981年生まれ、宮城県仙台市出身。非農家サラリーマン家庭で育つ。
- ▶ カラオケ店員・冷凍倉庫労働・WEB制作会社・印刷会社勤務を経て農業を志す。
- ▶ 有機農家で 1 年間の農業研修を終えた後、2012 年に「**自然農場 風天**」を村田町で開業。妻の他に、ウサギ・イヌ・ヤギ計 5 匹+鶏たちと暮らす。
- ▶ 就農相談・講演等に呼ばれることもある

①-3:農場の概要

①はじめに



- ▶ 圃場面積 : 150a
- ▶ 品目 : 野菜100品目超
平飼い採卵鶏180羽

①無農薬・無化学肥料

②固定種・在来種

③少量多品目

- ▶ 販売ルート : 直売80% / 他20%
- ▶ 設備・施設 : トラクター2、管理機3、軽トラ2、育苗ハウス1、小規模ビニールハウス1 他



①-4: 農家になった理由

①はじめに

- ▶ 営業職であったサラリーマン当時「数字」のみを追い求め、他人のために他人の都合で動く生活に嫌気が差し「**自分で自分の商品を買ってみたい**」と考えるようになった。
- ▶ 会社では、同僚や先輩が「**悪い仕事じゃないが、一生続ける仕事ではない**」とよく言っていた。では一生続ける仕事とは何か？思い浮かんだのは父方の実家。そこは米を中心とした複合農家で、小さい頃はよく遊びに行った。
- ▶ しばらく忘れていたその原風景を思いだし「一生続けられる。農家になろう!」と決めた。

①-5:就農までの道のり

①はじめに

~2008 年	農業に興味を持つ
2009 年 2010 年	農家見学を開始:「みやぎ農業見聞の集い」や、NPO 団体からの紹介、自主訪問など (2010 年 5 月結婚)
2010 年	11 月から農業研修開始
2011 年	12 月で農業研修終了
2012 年	1 月 1 日「 自然農場 風天 」開業

▶ 思い立ってから就農するまでに約 4 年を要した。2008 年から、営農中の現在までに気づいたこと、重要だと感じたことをまとめ始めたのが、この資料である。

②新規就農の前に

②-1: 就農理由と作目

②就農前

- ▶なぜ農家になるのか、**誰にでも分かりやすく説明できる**よう整理しておく。家族・関係機関だけでなく、あらゆる人から今後ずっと聞かれ続けることになる。
- ▶農家として何を生産したいか、すぐに決められないまでもいくつか候補を考えておく。なぜ就農したいのかと、何を作りたいのかは、**就農相談窓口で最初に必ず聞かれる質問**である。
- ▶「何を作ればいいのか」「簡単に儲かる作物はどれか」と聞く人がいるが、愚問。起業を考える人間の質問ではない。そのためにも自分で作目を想像した上で、現場見学と勉強が必要。

②-2: 家族の同意

②就農前

▶ 農業は、大なり小なり**家族を巻き込む**職業。既婚者は、必ず配偶者の賛同を得ること。独身でも、両親や親戚が心配しないように、収支計画(就農計画≡事業計画)を見せて説明を。

▶ 就農するまでも、してからも、数えきれないほどの困難が待ち受ける。一番身近な味方になりうる、家族の同意すら得られないのであれば、諦めるのが賢明。



▲就農前に作者が親族にプレゼンした資料

②-3: 資金の準備

②就農前

▶ 新規就農は起業であるので、当然資金が必要。金額は始める環境や購入する設備、作目で大きく異なるので、一概には言えない。

▶ 米・野菜・花・果樹・畜産などで必要な費用も設備が大きく変わる。さらに住居の改修費や運転資金も含め、自分に必要なものを地道に積算することが重要。

作者の場合、就農までに自己資金 300 万円と借入金 350 万円を用意。自己資金は生活のための資金に充て、借入金は設備資金やリフォームなどに充てた。自己資金 300 万円は最低ラインか。



②-4: 事実誤認を確認

②就農前

☑ 人間関係に悩まずに済む

▶ 農家は客先や自治体、地域の方との接触が非常に多く、サラリーマンよりも人間関係が濃厚な場合が多い。人間嫌いには向かない。

☑ 自然の中でのんびり働きたい

▶ 理想と異なり、自然は厳しい面も多く、大雨・猛暑・台風の中で働く場合もある。時間にも追われる。憧れだけでは無理で、体力と覚悟が必要。

☑ 補助金を使って楽をしたい

▶ 補助金を有利に使えるのは黒字で経営ビジョンがしっかりしている農家。提出書類も多い。就農に使える資金(政策により名が変わる)も、計画的に「血税」の意識を持って使うべき。

②-5: 相談窓口へ

②就農前

▶各都道府県には、新規就農の相談窓口が設置されている。ここが行政側の支援体制を取りまとめることになる。「**全国新規就農相談センター**」のWEBサイトで、自分の地域の窓口が分かる。

▶この窓口に加えて、就農先の市町村と、都道府県の農業部署の三者とが連携して就農を支援してくれる。**良好な関係**を築くべきである。

▶この窓口以外の場所(農協や自治体など)へ最初から行くと、本来の業務ではないので、たらいまわしが始まる危険性がある。

就農理由、家族の同意、作目、資金状況をできるだけ整理してから相談に行く。



③-6: 情報収集

②就農前

▶ **WEBではなくリアル**が、農業の情報収集の基本。WEBでは農業の情報量に限りがあり、文字と画像以外の情報がなく、書籍のような裏付けがない。相談窓口の紹介や、自分自身での問い合わせにより、農家見学・農業体験・現地視察等を継続的に行う。

▶ 新規就農や、農業の基礎知識に関する本を何冊か読んで勉強し、各種用語や自分が作りたい作目についての知識を得ておく。**基礎知識がないと、先輩農家や支援機関と会話にならない。**

体系づけられた農業情報はWEB上には非常に少ない。
人と会って情報収集を!



②-7:自己 PR ツール

②就農前

▶就農を検討し始めると人に会う機会が増える。会った人に自分を覚えてもらい、何かいい情報があれば連絡を取りやすいよう、**個人の名刺**を作るのがオススメ。

▶地域の関係者や地主、農業委員会に説明しやすいよう、A4の紙1枚にまとめた**自己PRシート**もあるとなお良い。就職活動用の履歴書ではないので、できるだけ簡潔に、分かりやすく、就農の動機と、どんな農地・家・資材等を探しているかを書き、独り歩きしてもいいよう工夫する。

名刺は、名刺用紙とフリーソフトとプリンターで、簡単に作れる。WEB印刷を使えばより品質が上がり信頼感を出せる。

①研修前

なかやま はじめ
中山 建

新規就農準備中!



〒984-0826 仙台市若林区若林1-4-47 大泉アパートB-7
電話 : 080-6053-1981
PCメール : info@sendai-no-kaze.com
携帯メール : h-bravo2@ezweb.ne.jp

農業研修を経て、2012年春に就農予定。無農薬・無化学肥料の安全でおいしい野菜の栽培を目指します。

②研修前半

なかやま はじめ
中山 建

農家見習い



〒984-0826 仙台市若林区若林1-4-47 大泉アパートB-7
電話 : 080-6053-1981 メール : info@sendai-no-kaze.com

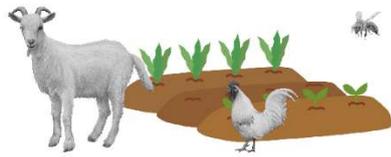
宮城県仙台市出身。自身と妻の2人家族。WEBディレクター、印刷・広告会社の営業を経て、現在宮城県村田町で農家見習い中。2012年の初夏に村田町で就農予定。無農薬・無化学肥料の安全でおいしい野菜の栽培を目指します。

●お借りできる家・畑などの情報があれば、ぜひお知らせ願います。

③研修後半

なかやま はじめ
中山 建

新米農家



〒984-0826 仙台市若林区若林1-4-47 大泉アパートB-7 (現在)
〒989-1302 柴田郡村田町大字小泉字賀籠沢85-2 (2012年1月~)
携帯 : 080-6053-1981 携帯メール : h-bravo2@ezweb.ne.jp

宮城県仙台市出身。自身と妻の2人家族。WEBディレクター、印刷会社の営業を経て、宮城県村田町で農家研修を受ける。2012年の春作から村田町小泉地区に就農。無農薬・無化学肥料で、少量多品目の野菜栽培を行います。

④就農後 A

Natural Farm Foo-ten
自然農場 風天
宮城県柴田郡村田町



なかやま はじめ
中山 建

村田町の里山で、天地自然の力をかりて、少量多品目の野菜生産。農薬・化学肥料は使わず、固定種・在来種多数。

〒989-1302 柴田郡村田町大字小泉字賀籠沢85-2
【TEL】0224-82-2353 【携帯】080-6053-1981
【FAX】0224-82-2354 【MAIL】info@foo-10.com
【WEB】http://foo-10.com



⑤就農後 B

Natural Farm Foo-ten
自然農場 風天
宮城県柴田郡村田町



固定種野菜農家
中山 建
なかやま はじめ



〒989-1302 宮城県柴田郡村田町大字小泉字賀籠沢85-2

☎ 0224-82-2353 ☎ 080-6053-1981
FAX 0224-82-2354 ✉ info@foo-10.com
http://foo-10.com Find us on Facebook

※現在は ver.C
実際にお会い
できた方には
差し上げます。



味も栄養も“濃い”野菜が
食べたい、あなたへ。

《自然農場 風天の特徴》

1. 無農薬・無化学肥料雑草いっぱい
 2. 固定種・伝統種が多い
 3. 少量多品目栽培
- 

②-8:社会人経験

②就農前

▶新規就農には、社会人経験(サラリーマン経験)が役に立つ。文書の作成やメールの書き方、電話応対など、**基本的なビジネスマナー**が必要になるのは農家も同じ。

▶アルバイト経験も含めて、**前職の知識や積み重ねが役に立つ**ことが多い。自分がどんなスキルや経験を持っているか、一度洗い出してみる。

【例えば…】

飲食店アルバイト : つまみや酒に詳しい。

デザイナー : PR ツール制作時に有利。

営業マン : 臆せず会話・折衝が可能。

経理 : 就農してからも大いに役立つ。

👉 **自分の経歴をもう一度振り返ってみよう!**

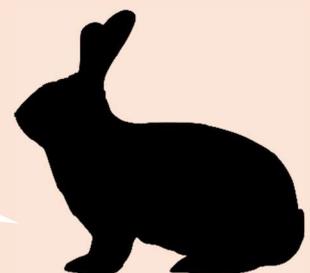
②-9:独立と雇用の違い

②就農前

▶雇用就農も新規就農に含まれるが、実際にはサラリーマンとしての会社への就職または転職であり、起業である**独立新規就農(新規参入)**とはまったく異なる。独立新規就農を目指してほしいのが個人的な考え。

▶雇用就農は、安定収入がある一方で、サラリーマンなので希望する農業ができるわけではない。逆に独立は、自分のやりたい営農が可能だが収入は担保されない。**どちらを目指したいのか**事前にしっかり検討する。

作者としては、独立農家が増えてほしいです!



②-10: 経営の理想像

②就農前

▶ 就農を検討していく段階で、複数の農家を見ることになるはず。最初はおぼろげでもいいので、自分自身が**どんな経営を理想とするのか**を考えていく。

▶ 最初に考えた理想の経営への道はおそらく遠く、まだ農業をしらないがゆえに、実際にはかなり困難なモデルを考える場合もある。**就農してからも、随時ビジョンを変更する**のを恐れない。

最初から理想の経営が思い浮かぶわけではない。研修中～就農してからも、どんな農家になりたいのかを考え続ける。

③ 農家研修中

③-1：農家研修の必要性

③研修中

- ▶ 就農するためには、農家研修以外にも、教育機関で学ぶ、研修自体を受けないなど、**複数の道がある**ことを知っておく。
- ▶ 教育機関では広い知識と実技が可能で、経営に関する科目や外部講師を呼んでの講話等がある。農家研修との一番の違いは、教えてくれる先生が**実際には経営をしていない**こと。
- ▶ 体系づけられたカリキュラムでなくても、自分の理想に近い農家での研修が、**個人的には農家研修がおすすめ**と考える。
- ▶ 独学は、農地借用のハードルが非常に高く、おすすめできない。

③-2:研修の心構え

③研修中

▶研修先自体も当然農家であり、日々の仕事の中での研修となることを肝に銘じる。教育機関のような座学ではなく、仕事を手伝いながら、その仕事自体を覚えていくこととなる。

▶研修生が単純な作業を行っている間に、研修先が別の仕事をすることもある。農業研修自体が、**研修生の労働力と、研修先の知識・経験との交換的側面がある**ので、あまりに放っておかれるのでなければ許容すべき。

気づいたことがあれば、メモを取る癖をつける。ただし何でもメモする余裕も時間もないので一日が終わってからでも良い。



③-3:研修先選びの注意

③研修中

▶ **人間性が合うか、自分の理想とする経営に近い**か、の **2点**を重視して選ぶのが基本。お互い人間なので、いくら営農形態が理想的でも、気が合わないと双方苦労することとなる。

▶ 中には、研修生に暴言を吐いたうえに暴力をふるい、短期間で何人も研修生が辞めるような農家もある。**研修先以外からの評判も聞き、悪質農家には注意**すること。



悪質農家は業界全体の恥！トラブルはすぐに支援機関へ相談しましょう。

③-4: 就農計画の作成

③研修中

▶ **農地を借りられるのは、農家が「認定就農者」だけ。** 就農前は当然農家ではないので、まずは認定就農者になる必要がある。これには都道府県知事に就農計画を提出・申請をして、認められなければならない。一般の会社で言う、開業前の「事業計画」に当たる。

▶ 就農計画は **5 か年分の見通し**が必要になるので、自分だけでの作成はほぼ不可能。県と研修先とに相談しながら作成すること。

▶ 必ずしもひな形に書き込む必要はなく、**内容に突っ込みどころがなく明快であれば**認定はおりる。自分の営農形態に合わせてカスタマイズしても構わない。

③-5:研修先以外の見聞

③研修中

▶ **研修先以外での経験も、継続的に積む**ことが重要。他の農家を見学に行ったり、支援機関主催のイベントに参加したりして、自主的に勉強を続けることが重要。

▶ 圃場の見学や作業だけでなく、**他の先輩農家とのつながり**も作る。特に新規参入者は絶対数が少ないため、横のつながりが強く、様々な情報交換ができる。イベントだけでなく、その後の懇親会などにはできるだけ参加すると、人脈を広げる機会が増える。

▶ 横のつながりは、就農後も強い味方として生きる。研修中から育むべし。



宮城県の新規就農者有志は、懇親会や研修会、イベント開催などで交流を深めている。

③-6: 農地探し

③研修中

▶ 農地を借りるのに苦労した話をよく聞くが、農家人口の減少で農地自体は空きがある場合が多い。未経験者に貸すという、**貸し手側の精神的ハードル**が存在することを理解する。

▶ 農地は不動産と異なり、人づてにしか探せない。役場や地域の有力者に相談し、**研修段階から「借りる意思」を示しておく**。そのためにも、就農希望地域での研修が理想。

▶ 作者は農業委員会に自己 PR シート(②-7)を配布し、町内の農業委員に物件探しを依頼した。**農業委員は各地区の有力農家なので積極的に動いてくれる**し、そうでない地域にはそもそも入らない方が良いという、一つの目安にもなる。

④-7:住宅探し

③研修中

▶新規就農者は、農地と同じ場所、またはすぐ近くに住む**「移住型」**と、離れた場所や都市部に住んで通勤する**「通い型」**に大別される。作者の周囲では、作者本人以外はほぼ「通い型」である。

▶移住型も通い型も一長一短があるが、自分としては**いつでも作物の様子を把握でき、荒天時にも対処がしやすい**移住型が気に入っている。地域への浸透が非常に重要となる。

▶住宅は農地よりも物件数が少ない傾向にあるが、探し方も基本的には農地と同じ。自治体の空き家バンク等も、非公開情報も含めて情報源となる。作者の場合、農地も住宅も最終的に「選べる」という有難い状況となった。



就農前に、候補の家と畑を案内されている最中の様子。家は3軒から選べたのでまず家を決め、その後周辺の畑を探すという流れだった。

後から家を買収するつもりがあるなら、法務局で登記簿謄本を確認して、相続が地主に適切にされているか調べておくこと。相続がされていないと、所有権移転が難しくなる。

③-8:資金の見積と節約

③研修中

▶ 就農開始のための資金は、**研修中(または就農計画作成時)に必要な額を見積もっておく**必要がある。何がどれくらい必要でいくらかかるのか、研修先にも聞きながら情報を集めること。

▶ 研修中は、生活費に加えて作業衣類や農具、開業資金の貯蓄、書籍等を少しずつ買い足していく必要があるため、**お金の節約が必須**となる。中古で済むものはできるだけ中古を選ぶこと。

▶ 移住する場合、住宅の修繕が必要となる場合も多い。電気・ガス・水道以外で、**自分でできる部分は DIY で済ませる**ことも検討する。作者の場合は床の張替えや壁の塗り直しを行い、資金を節約した。プロ並みの仕上がりは求めない。

③-9:販路の検討

③研修中

▶販路は就農までに決めておくべき、と言われる場合も多いが、**まだ生産物がなく生産量もないのに、購入を確約してくれる相手はいない。**実際には、販路を想定・検討し、関係づくりをしておくという作業になる。

▶販路の例

- 市場
- 農協
- 仲卸
- 個人直売
- 飲食店直売
- WEB販売
- 直売所
- 小売店卸
- 行商
- 産直コーナー（スーパーなどの小売店内）
- イベント出店（定期・不定期とも）

それぞれの特徴を理解し、見学し、可能な相手には挨拶等をしておく。

③-10: 失敗事例の収集

③研修中

▶ 農業に限らず、成功事例は溢れかえっているが、失敗事例は非常に少ない。公にするのがはばかれるという事情もあるだろうが、独立後に**本当に参考になるのは失敗事例の方**である。農家の本を読んだり、直接聞いたりして、できるだけ多くの失敗事例を集めること。

▶ 失敗事例のみが書籍化されている例は極めて少ないので、**この件に関してはWEB検索が便利**。農家のブログを見ていると、しばしば失敗事例が書かれている。また、先輩農家に会うたびに失敗談を聞くのも重要。ありすぎて一言では話せない、と言われる場合も多い。

④ 新規就農後

④-1:一年目はデータ取り

④就農後

▶一年目から収益を上げようと思わず、まずは**自分の圃場の特徴と作業時系列の把握、栽培法の試行錯誤**に費やす。初めての畑での草刈り・耕耘・播種・定植・管理・収穫だけで、あっという間に一年が過ぎる。

▶人間の記憶は曖昧なので、強烈な印象の出来事以外はどんどん忘れていく。紙に書いたり、データとして入力したりして、**重要なことは必ず記録する**ようにする。

種まきや定植、鉢上げ、収穫などの記録は、すべて二年目以降の参考になる。何をいつどこに播いたか、一年目から忘れず記録する。

④-2:地域への浸透

④就農後

▶移住型の場合、営農と同じくらい重要なのが、地域になじむこと。消防団や様々な組織の役員など、**何か一つ地域の仕事を担い**、地域でのつながりを深めていく。

▶農村部は特に**若い人材の不足が顕著**な場合が多く、移住後すぐに地域の仕事を始めた場合「若いのに偉い、頑張っている、やる気がある」と評価され、協力を得られる局面が増える。

▶移住後しばらくは、地域の方が入れ替わり立ち替わり、様子を見に来る場合がある。多少忙しくても、お茶を出すなどして親睦を深めると、後々良好な関係を築ける。

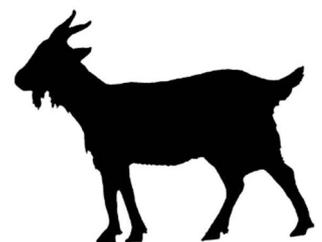
④-3: 農業のみに集中

④就農後

▶ 就農してしばらくは農業に集中し、趣味は息抜きや気分転換程度に留めるべき。当初は経験も技術も体力もなく、**仕事だけで相当のエネルギーを消費する**。農業以外での消耗は控えるべき。

▶ 地域の仕事も、度を越えると時間を取られて仕事に集中できない場合がある。引き受けても1~2つ程度に留め、**本業に支障がないよう調整**する。時には断る勇気を持つこと。

最初から農産物加工などを行う「六次化」を目指す人もいるが、まずは一次の生産物をしっかり作ることが重要。農業以外のことをすれば、当然作業時間が削られる事実を理解すること。



④-4: 技術研鑽と情報収集

④就農後

▶ 農業は数多くの条件によって作柄が良くも悪くもなり、新しい品種や技術も次々に出て来て、消費者の動向も変わる。**常に勉強を続け、改善を図る**ことが必要。

▶ 書籍の新刊をチェックしたり、種苗カタログに目を通したり、同業者や種苗店・資材店・機械店との情報交換も含めて、アンテナを張っておく。

▶ 時には自分の地域を離れ、他地域の先進農家や研究機関、飲食店、種苗店、直売所などを訪ねる「**自主研修**」も検討する。自分の営農の見つめなおしや、新たな情報の発見に役立つ。



首都圏へ自主研修に行った際の写真。農家、種
苗店、スーパー、書店、飲食店などを巡った。
圃場を離れ、大変良い刺激になった。

④-5:経費の節減

④就農後

▶財務状態を良くする二本柱は「売上の拡大」と「経費の節減」。まずは工夫の余地がある、経費の節減から着手する。

▶**長期間一定額を払い続ける**固定費である、地代家賃・保険料・水道光熱費などは、少しでも安いところを探す。また価格だけでなくクレジットカードによって、同じ口座からまとめて支払い、お金の動きを分かりやすくすると同時にポイントも溜めるなど、細かな工夫が後で効いてくる。

▶農業機械は便利な反面、**入れれば入れるほど維持費が増す**。費用と導入効果を天秤にかけ、本当に必要かどうかを慎重に検討すること。



時間をかけて少しずつ揃えていった農業機械。
本当に必要か、いくらまで支出できる、維持費は
どうかなど考えて導入する必要がある。

④-6: 自前か外注か

④就農後

▶経費の節減のためには、さまざまなことを自分でやるのが効果的だが、すべてをこなすと労力が足りず、肝心の農作業がおろそかになる。

▶作者は就農して 10 年目までは配達を自前で行っていたが、**顧客が増えるにつれて農作業の時間が圧迫される**ようになった。

▶これではまずいと感じ、ほぼ全ての配達を運送会社への外注に切り替え、**一週間あたり 4~6 時間の作業時間を増やす**ことができた。

その代償として、今まで顔を合わせていた顧客との接点が大幅に減るため、そこをどうカバーするかの検討は必要。

⑤-7:取引先の選定

④就農後

- ▶取引先を探して「営業」していると、向こうから「うちの店(やネットショップ)で農産物を売ってほしい」と声がかかる場合もある。
- ▶取引に際しては、単価・支払いサイト・荷姿・その他の条件・相手方の評判などを調べ、**即答しない**こと。
- ▶特に最初のうちは嬉しくて二つ返事で引き受けがちだが、向こうも商売であり、**単に利ザヤを取って面倒な作業を全て農家に押しつけようとする悪質な業者**も少なくない。

農家の「営業」は難しくない。売り先がなくて困る新規就農者は少ないので、慎重な行動を。

⑤ 就農相談事例と 作者の所見

⑤ -1: 相談事例

⑤ 相談事例

■ 農業をしたい、しかしどこで何を作ればよいか分からないのですが？

- ▶ 最初は皆そこからスタートする。ただ他の業種と違うのは、**どこで何を作ればよいか、まず自分で調べて考えてみない人が非常に多い**という点。
- ▶ 例えばレストランを出したい人が、どこで何を提供するか考えないというのにはあり得ない話。
- ▶ 「農業をしたい」という気持ちだけを先走らせず、下調べを丹念に行うこと。

検討材料となる先輩農家の事例は、各都道府県にある新規就農相談窓口が把握している。

⑥-2: 相談事例

⑤ 相談事例

■ 就農はしたいものの、借金をしたくないので 手持ち資金で就農したいのですが？

▶ 起業するには程度の差はあれ必ず投資が必要。貯蓄が潤沢にある人以外は、**借金をしないと必要最低限の設備すら整えられない。**

▶ どうしても借金をしたくないのであれば、事前にダブルワーク等で頑張ってお金を貯める以外の方法はない。

新規就農者は、国策により極めて低い金利、または実質無金利で借り入れが可能。据置期間も長いので、必要経費を積算の上で相談窓口の担当者と借入額を検討すること。

⑤-3: 相談事例

⑤相談事例

■たくさん稼がなくても、半農半 X で慎ましく暮らせるだけの収入を得たいのですが？

▶このように考える人は、就農を「起業」と考えず、辛い現実からの逃避と捉えている場合が多い。

▶農業は、農業の経験・能力がないと**「慎ましく暮らせるだけの収入」を得ること自体が簡単ではない**業種なので、アルバイトをしながら貸し農園で耕作するのが現実的。

▶どうしても半農半 X を希望するなら、それだけで「X」の仕事になるスキルの習得が必須。ただし体力仕事との両立になるので、体力的時間的に厳しい生活になる覚悟が必要。

⑦ -4: 相談事例

⑤ 相談事例

■ 農業法人で給料をもらいながら、独立に向けて経験を積みたいのですが？

▶ 会社である農業法人で求められるのはあくまでも「**サラリーマンとしての労働**」であり、積極的に就農のサポートをしてくれるわけではない。

▶ 収入が途切れることを恐れているのだろうが、**農家研修でスキルを磨いてさっさと新規就農した方が結果的には早道**と作者は考える。

▶ ただしごく一部に、新規就農(独立)を積極的にサポートすると謳っている企業もあるので、独立率などを詳しく調べてみる価値はあるかもしれない。

⑤-5: 相談事例

⑤ 相談事例

■ 自分で農業法人を設立して、会社としてしっかり稼ぎたいのですが？

- ▶ 農業法人は**必要があって設立するもの**であり、最初から法人の設立を目的とするのは本末転倒で意味不明である。
- ▶ 法人化すると、個人事業では求められない細々とした事務処理が必要になる上に、税負担も格段に大きくなる。
- ▶ 個人事業として一定額以上を稼ぎ**「法人化した方が金銭的に得」**と確信してから設立しても、まったく遅くない。

⑤-6: 相談事例

⑤相談事例

■自身は就農せず、農作業のマネージメントや農産物の販売仲介を行いたいのですが？

▶ 農作業のマネージメントを必要としている農家はおらず、農産物の販売仲介は赤字の先行者が溢れるレッドオーシャンである。

▶ そもそも**自分が動かずに他人のファンドシで相撲を取る**、楽をして利益をかすめ取るような人物に、積極的に協力する農家はいない。**容易に下心を見透かされる。**

就農して事業が軌道に乗ってから仕事を広げるなら筋が通るが、現場を知らない素人に仕事を依頼するプロ農家は皆無である。

⑤-7: 相談事例

⑤相談事例

■40 代以上、または新卒で就農をしたいのですが、可能でしょうか？

▶可能。ただし 40 代以上では**迅速な行動と綿密な計画の両方**が求められる。若者のように失敗できないからである。新卒は社会経験がないので**対人関係・一般的なビジネススキルやマナーで不利となる**ことが多いかもしれない。

▶40 代以上の場合は、自分の体力や農家研修で習得可能なスキルを吟味し、本当に就農してやっていけるか慎重に検討すべき。

▶新卒の就農は作者としてはオススメしない。就活・就職・社会人をまず経験すべきである。

⑤-8: 相談事例

⑤相談事例

■引きこもりの息子に農業をやらせたいのですが、どうすれば良いでしょうか？

▶ 農業は引きこもりの方には向かないと考える。非常に体力が必要で、日頃から体を動かしていない場合は数日で脱落する場合すらある。そもそも**農業は引きこもりの受け皿ではない**。

▶ 人間と関わらせたくないからこのような発想が出てくるのだろうが、**農業界の人間関係はある意味でサラリーマンより濃密**で、対人関係が苦手な人には大変な苦痛となりうる。

▶ 人にやらされる仕事ではないので、本人の強い希望で挑戦したい場合のみ、改めて検討を。

⑤-9: 相談事例

⑤相談事例

■就農一年目でピーマンを作っていますが全く儲かりません。どうすれば良いでしょうか？

▶作目の転換・時期の変更・売り先の検討など、打つ手はいくらでもある。

▶この事例の場合、上記のアドバイスをしても「ピーマン以外作りたくない」「売り先を変えるのは大変」等、**現状を変えることをよしとしなかった。このような人は、根本的に就農してはいけない。**農業では常に方針転換が起こりうる。

このような相談は、まず都道府県の農業改良普及センターの相談すべき事案であり、その点からも残念な相談であった。

⑥-10: 相談事例

⑤ 相談事例

■ **スマート農業を学んで実践したいのですが、やり方を教えてくださいませんか？**

▶ 農業法人の事例と同じだが、スマート農業は手段であって、目的ではない。それらが逆転している**「手段の目的化」は、論理が破綻している。**

▶ **現状に比べてより高効率化・高収益化するために存在するのがスマート農業**であり、正確には「スマート農業技術(または機械)」なのが実態である。費用も高価なものが多い。字面やイメージに踊らされてはいけない。

▶ 就農後、金銭面に余裕ができたり追加借り入れの目途が立ってから、初めて検討すべき。

⑦-11：相談事例

⑤相談事例

■お金(給料)を貰いながら農家研修をしたいのですが？

▶ 農家研修は労働ではなく、言わば学校のように**技術を教授される機会である。よって賃金は発生しない**。本来なら謝礼を払うべきですらある。

※自治体から研修農家に若干の謝礼はある

▶ 収入を得ながら研修したいという気持ちは理解できるが、学ぶ時は集中して学び、早く農業で収入を得られるよう努力すべき。

▶ 研修の要件に抵触しなければ別途アルバイトを許可される場合もあるので、相談窓口で詳しく確認すること。

⑤-12: 相談事例

⑤相談事例

■夫婦二名で一緒に新規就農したいのですが、可能でしょうか？

▶可能。農家になるハードルのひとつが家族の同意であるので、その点をクリアしている時点で望ましい状況と言える。

▶ただし最初のうちは**片方がアルバイトに出るなど、現金収入の道を確保しておく方がリスクヘッジとなる**。農業は働いた分儲かる保証がないからである。

最初から二名で就農する場合は、妻(または夫)を青色事業専従者にするなど、経理面での配慮も必要。

おしまいに

▶農業は、人の命を支え、また人を笑顔にする重要な仕事だと考えています。

▶この資料を最後まで読むくらい気合の入ったあなたが、一人でも多く農業に就き、地域を維持発展させ、そしていずれまた新しい仲間を増やす循環が生まれるよう願っています。

※この資料は、宮城県・県内の市町村・関係する支援機関等で「一新規就農者の私見」として、自由に配布・活用して頂いて構いません。特に連絡の必要もありません。ただし、活用した機会や感想を教えて頂けると、作者が喜びます。

ありがとうございました



▲この資料データのダウンロードはこちら▲

<http://foo-10.com/oboegaki-4.0.pdf>

2023年1月改訂

自然農場 風天 中山建



【E-mail】 info@foo-10.com (エフオーオーハイフン 10)